case 27

平成21年度　採択事業

# 日本初の『準不燃材料』竹材を開発
## 竹産業と和文化の復興に意欲

**有限会社　横山竹材店**
専務取締役　**横山 裕樹**（よこやま ゆうき）さん

横山裕樹さん

### 竹材の復権を賭けた挑戦

竹のある風景は日本特有の景観美であり、竹材は和風建築の象徴でもあります。ところが建築基準法や消防法の関係で、旅館などの上階では竹材を内装に使用することができません。「ではどうしているのかというと、竹の柄を印刷したクロスが天井に貼られている。こういった事情で日本の文化が様変わりしていくのは、非常に残念ですね」。需要が減ると業者も減る。悲しいかな、それが伝統産業の現状です。老舗竹材店の次代を担う立場である横山裕樹さんは、家業の、ひいては業界の行く末を案じ、現状を打破すべく「準不燃竹」の商品開発に乗り出しました。

国土交通省の定める“準不燃”の認定が得られれば、竹材では日本初。建材としての用途も大幅に広がります。横山さんは竹に不燃剤を注入加工する方法で、認定取得に向けて行動を開始しました。しかしこの事業には、経費が発生します。まず第三者機関で性能評価の試験を受ける。ここで基準をクリアしたら、次は国交省の試験。合否の如何に関わらず、試験を受けるだけで経費が発生します。不燃剤の研究や注入作業は外部業者に委託しているため、研究開発費も少なくありません。ファンドの支援は、事業遂行の大きな助けとなりました。

工房内での作業

### 伝統技術に時代性をプラス

大正8（1919）年創業の横山竹材店は現在、祖父・父・孫の3世代が従事し、専務である孫世代の裕樹さんは5年前から家業に携わっています。「先々代の頃は竹が売れて売れてしょうがなかった時代。でも時代は変化していく。先代、先々代が残してくれた技術は次代に受け継いでいかなあかんと思うんですけど、それプラス、その時代に合ったものをどんどんつくっていくのが僕らの仕事とちゃうかな」と裕樹さん。

父である現社長も、京都花灯路の行灯や、鴨川床のよしずカーテンなど、時代に合った新たな分野を開拓してきました。京都迎賓館の竹垣施工を任されるなど、脈々と受け継がれてきた伝統技術ももちろん健在です。「うちは3代が、過去・現在・未来というスタンスで働いている」と言う裕樹さんは、未来の担当。若い感性、発想、行動力を駆使して、ホームページやプロモーションビデオの制作、エコ時代にふさわしいマイ竹箸製作ワークショップの企画など、今回のファンド事業以外にも数々の新しい仕事に取り組んでいます。

MY竹箸製作ワークショップの様子

### 認可までの長い道のり

「準不燃竹」に関しては平成22（2010）年10月現在、国土交通省の認定待ち状態ですが、ここにたどり着くまでにはさまざまな苦労がありました。まず最初に試験体の形状でつまずきます。試験を受ける材料は、四角い板でなければいけないというのです。「国交省が『丸いもんは受けられへん』と言うから、僕は「竹は丸いからしゃあない」と。そしたら『じゃあダメですね』と言われる。『それやったら丸いもんは、燃えるもんの該当にも入れるな』と僕が反論する。すると『横山さん、それは屁理屈や』と」。

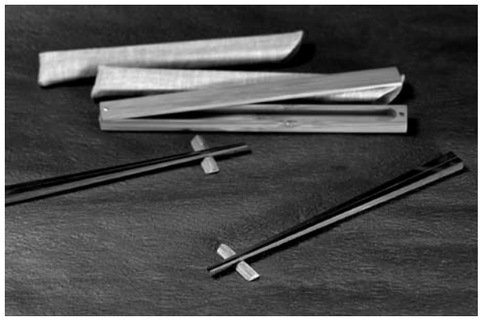
埒のあかない状況に陥りましたが、どうしても試験を受けたい横山さんは、四角く平たい竹を選んで切り刻み、レンジで熱しプレス機にかけて真四角の試験体をつくります。そこに不燃剤の注入加工をして試験を受けました。1回目はアウト。その後試行錯誤を繰り返し、2回目の試験で見事基準をクリア。しかしすんなり認定というわけにはいかず、何度かの面接で品質維持や在庫方法に関する条件もクリアしなければなりません。面接も1項目ごとに申請と順番待ちの繰り返し。思いのほか時間がかかります。

ただ、横山さん自身は、認可が下りるという前提で次の計画を進めています。「試験はパスしてるわけですし、データもたくさん残っている。東京ビッグサイトで開催されたギフトショーにも出展しましたから、今でも問い合わせは多いんですよ」。認可後は即宣伝、販売を考えているため、製品バリエーションの考案や、コストダウンのための溶剤注入機購入についても検討中です。

### 業界の発展を第一目的に

今回の事業の目的について、横山さんは「自分ところが儲かるならそれにこしたことはないですけど、それ以上に業界が発展しんことにはね。それと、放置竹林の問題が少しでも解消されれば」と話します。昨今の京銘竹の出荷量は、約20年前の10分の1ぐらいまで落ち込んでおり、切り出す竹の量が減少したことで放置竹林が増加しているのだとか。「うちには半割や平割の竹をベニヤ板に貼り、建材として加工しやすくしたボード状の製品があります。『準不燃竹』が認定されれば、それらも準不燃材料として使えるようになる。そうなれば販路が広がるし、放置竹林問題の解消にもつながるでしょう」。

伝統産業に携わっているからと、プライド高く構えるのは嫌い。同時代、異業種のさまざまな人たちと積極的に交流して、柔軟に変化していきたいと考える横山さん。「ファンドの人たちもみんなそうですが、新しいことに挑戦している人は目の輝きが違うし、自分を燃えさせてくれる。負けられへんと思います。そういう人たちとの付き合いは勉強になりますね」。今後もあふれるアイデアと情熱で、竹材業界の未来を切り開きます。


炭化煤竹MY箸セット

**事　業　概　要**

**有限会社　横山竹材店**
http://www.yokotake.co.jp/
代表：横山冨男
業種：竹材卸業
創業：大正８（1919）年　設立：昭和 29（1954）年
住所：〒 602-806
京都市上京区油小路通下長者町上亀屋町 135
TEL：075-441-3981　FAX：075-432-5876